

要旨

レトノニシム、フィトリアニ 2016 年。松木つくる監督ドラマ「ラーメン大好き小泉さん」シーズン 1 における日本食文化のラーメンによって拘りのコンセプトについて ブラウイジャヤ大学の日本語学科

教師：(1) Retno Dewi Ambarastuti (2) Elisabeth Worobroto P.

キーワード：ドラマ、拘り、食文化、ラーメン、ラーメン大好き小泉さん

文学作品は人生から得る人間のインスピレーションと想像力の結果である。そしてドラマは、想像力豊かな一つの文学作品を表現される。著者は、研究対象として松木つくる監督のドラマ「ラーメン大好き小泉さん」を使用する。これは、このドラマがラーメンという日本の食文化を通して日本社会の好む食べ物の拘りのコンセプトを描写していると考えからである。

本研究では、著者は人気のオブジェクトとしてラーメンを取り上げている資料等、そして福富（2010）による拘りの概念を用いている。また、ドラマの分析に役立つ映画の要素を使用し、日本におけるラーメンの人気の事実についても説明している。本研究の目的は、ラーメンという日本の食文化によって、日本社会の好む食べ物に対する拘りのコンセプトについて説明することである。

この研究の中で、ラーメンが日本社会に好まれる食べ物であることを証明した。ドラマ「ラーメン大好き小泉さん」における、日本社会の好む食べ物としてのラーメンが表示するのは、消費者の拘りのコンセプトである。そのなかでも特筆すべきは、面白い姿勢とラオタ活動である。そして生産上の拘りのコンセプトとしては、くせ、売り、そしてブランドが示された。そして研究の結果として、国民食としてのラーメンのコンセプトをドラマを通して分析することができた。